

令和2年度第1回東北森林管理局林野公共事業事業評価技術検討会審議概要

1 開催日時 令和2年7月15日 10時00分～12時00分

2 開催場所 東北森林管理局 4階第3会議室

3 出席者

(1) 技術検討会

会長 高田 克彦

委員 立川 史郎

委員 菊池 俊一

委員 梶本 卓也

(2) 当局出席者（検討委員会委員等）

森林整備部長

計画保全部長

企画調整課長

計画課長

治山課長

森林整備課長

資源活用課 課長補佐

企画調整課監査官（事務局）

森林整備課課長補佐（説明員）

4 議事概要

完了後の評価（森林整備事業）

: 東青森林計画区 青森森林管理署

: 北上川上流森林計画区 盛岡森林管理署

: 宮城南部森林計画区 仙台森林管理署

: 子吉川森林計画区 由利森林管理署

【質疑応答】

委員：東青森林計画区ではウサギの食害が見られるため、スギからヒバへ樹種転換しているようであるが、各森林計画区で新たに植栽する場合の樹種の選定方法を教えていただきたい。

当局：植栽樹種については計画段階で伐採造林計画簿に定められている施業群を基に決定している。例えば施業群がスギ・カラマツで

【機密性2情報】

【事業評価担当者限り】

あれば伐採後にスギかカラマツを植えることになるが、各森林管理署において現地の状況等を確認し、現地に適した樹種を選定している。

- 委員：ヒバのコンテナ苗について、東青森林計画区の一部地域において試験的に植栽しているのか、あるいは今後はこの地域全体で積極的にヒバのコンテナ苗を植えるのか。
- 当局：試験的な扱いである。平成28年度から植栽しているが、ウサギによる食害が減少するか結論は出ていないため、今後も引き続き実証しながら効果が見られるか確認する。
- 委員：北上川上流森林計画区のB/Cが他の森林計画区に比べて高い値が出ている。B/Cの計算は費用便益の区分が色々あるが、間伐等の生産の違いの比率が大きいのか。
- 当局：費用の中で下刈りや除伐等があるが、間伐に係る経費が他の計画区と比べると低くなっている。経費の違いを調べたところ、林齢や間伐の方法も他の森林計画区とそれほど変わらないが、カラマツの間伐面積が大きく違うことと落札率が低いことが要因と思われる。
- 委員：間伐の費用に関して落札率の説明があったが、請け負った事業者の技術力も反映されるのか。
- 当局：入札の際に安全に効率的に作業ができる事業者であれば低い価格で落札することができる。そういった意味では技術力も反映されているかもしれないが、林分状況等によっても変わってくるため、一概に言い切れない。
- 委員：B/Cについて、それぞれの事業区で比較するのではなく、同一事業区の経年的な変化、例えば間伐の費用等が時間とともに変わっていく中で、B/Cの値が1に近づくのか注視する必要があると思われる。
- 委員：費用分析の方法は見直しされているのか。
- 当局：費用分析については毎年変更されており、また、今年度、林野庁において「森林保全整備事業の費用対効果分析手法検討調査事業」を発注している。その結果によって、今後大きく変わる可能性はある。

【機密性2情報】

【事業評価担当者限り】

委員：東青森林計画区の地元の意見で、蓬田村からの意見にニホンジカやイノシシについて記載されているが、これは青森県内の東部地域のことなのか、それともこの計画区のことなのか。

当局：これについては三八上北地方のことである。

委員：宮城南部森林計画区の事業内容で、保育の中につる切りがあるが、他の計画区では実行されていない。これはつる切りのみ実行しているのか、それとも他の作業と並行して実行しているのか。

当局：通常であれば除伐と一緒に実行しているが、一部地域では単独で実行しているところもある。

委員：北上川上流森林計画区の地元の意見について、雫石町からアカマツの枯損木の情報提供をお願いしたいと記載されている。枯損木の処理については、ただ伐採しているわけではなく、看板を設置するなどして一般の方に向けても計画的に森林整備を行っていることをアピールする必要があると考える。

委員：子吉川森林計画区の個表の社会情勢の変化について、「秋田の極上品」について記載されているが主に県北地域のことか。

当局：主に県北地域の三署が該当となるが、秋田県全体を表している。

【技術検討会の意見取りまとめ】

会長：これまでの議論を踏まえ、本技術検討会の意見を取りまとめた結果、『本事業の実施により、水源涵養等の森林の有する公益的機能の維持増進が図られ、事業の効果が発揮されていると認められる。今後も地域の特性や、現地の状況、社会情勢及び事業の評価を踏まえ、引き続き森林整備や路網の維持管理を適切に実施するとともに、事業の実施を通して地域に貢献していくことが望ましい。』とする。